

令和6年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和6年7月2日（火）15時～16時30分

2 会場 大阪府立三国丘高等学校 校長室

3 出席者：

〔委員〕 田中満公子会長、仲林信至副会長、井上博史委員、吉岡哲郎委員
田村啓委員、（河野泰之委員：ご欠席）

〔学校側〕 藤井光正校長、田中和代教頭、中島泰志事務部長、大塚雅之首席
渡部英輝首席、宮根隆教諭（3学年主任）、北川晃士教諭（2学年主任）
辻本幸美教諭（1学年主任）、中屋江里子教諭（進路指導主事）
神宅浩司教諭（SSH研究主任）、田中洋平教諭（SGH研究主任）

4 〈次第〉

①校長挨拶

本日は京都教育大学名誉教授村上忠幸先生を講師にお迎えし教員研修を実施しました。教員研修を視察いただくため、本協議会委員の先生方にもご案内を差しあげたところ、2名の委員にお越しいただきました。研修終了が少し遅れた関係でお待たせすることになり申し訳ありません。本日はよろしく願いいたします。

②議事

（1）令和5年度学校評価について、令和6年度学校経営計画について

【学校】 まずは、資料3をもとに、学校評価について説明する。学校教育自己診断（生徒用）の結果、全質問項目の87%で肯定率が前年度比で向上。同自己診断の保護者用でも81%の質問項目で肯定的意見が前年度より増えた。一方で、課題と捉えているのは土曜授業。土曜授業に関する質問項目は、生徒用、教職員用で肯定率がどちらも半分程度しかない。これについては、今後検討し、今年度中に方向性を出す予定。令和5年度の学校評価は、○と◎が60%を超えていることから、一定の成果を挙げていると判断している。学校教育自己診断の肯定率90%など敢えて高い目標数値を挙げている項目もあるが、引き続き目標達成に向けて取り組みたい。

次に、資料4をもとに令和6年度学校経営計画について説明する。4（1）ウで超過勤務5%減の目標設定をしているのは府立学校全校への教育庁の指示。超過勤務は昨年度も減っており、今年度も4月、5月、6月は減少しているので、目標達成できるのではないかと考えている。

また、三国丘高校のイメージの変革を行いたいと考えている。探究活動や海外研修、学校行事といった楽しいイメージだけではなく、進路保障や学力保障をきちんと行っている点についても伝え、三国丘高校が中学生にとって、より魅力のある学校

となるよう努力したい。5月には、「スクールインフォメーションミーティング」という、中学生とその保護者向けの学校説明会を行い好評を得たが、今後もPRをしっかりとしていきたい。

【委員】 学校教育自己診断については、過去何年かの推移もぜひ見せてもらいたい。データの蓄積にもなり、議論も深まると思うので検討してほしい。

【委員】 資料は、前もって郵送してほしい。

【委員】 読書量に関する令和5年度の設定目標は△（未達成）になっているが、生徒が読んだ冊数と貸し出し冊数は比例するのではないか。貸し出し冊数での把握も考えてみてはどうか。

【委員】 読書数以外の項目を目標にすることも考えてみてはどうか。

【委員】 朝の始業前などに読書時間などを設けるといいのではないか。

【委員】 本をたくさん読むことは大事だが、これからは、本を早く読むことも重要になってくるだろう。

【委員】 ある中学校から入学した10人が全員部活動を辞めたという話をきいた。入部率は1年生の最初に入部届を出す時期に測ったものでありその後部員数が減っていることを考慮していないのではないか。

また、顧問から部員に対して、海外研修に行ってはいけないという圧力がかったという話をきいている。生徒と顧問がかなり強い上下関係になっていて生徒の自主性があるとは思えないクラブがある。これは私の経験だが、自分は、顧問がやる気のないクラブを選んで入部した。予算配分から部員集めまで全部自分たちでした経験は貴重だったと思っている。三国丘高校の部活動も、生徒への権限の委譲を進めるべき。

【学校】 部活動の入部率の確定時期は、教育庁に書類を提出する時期。

【委員】 1年生に対して、役に立つかどうか分からない練習をさせて部員数を減らすということがなされていることを私は把握している。

【委員】 部活動の運営とか指導に関することは、基本的には、生徒が直接、しかるべき場

所でしかるべき先生方に意見を言うというのが一つの方法かと思う。

【委員】 生徒から、そんな意見は絶対に出ない。クレームがないから問題ないというのは大きな間違いである。私だけがこれを問題にしようとしている。

【委員】 このご指摘については、一旦学校に預けるという形で進めたい。

【学校】 発言いただいたことについては教職員に周知する。部活動指導というのは確かに大変だが、生徒たちがやりたいと思っていることなので、現状のクラブ数は維持していきたい。

【委員】 退部者数の把握はしているのか？

【学校】 していない。

【委員】 退部者数は重要な評価指標。高校入学時点で 10 年近くその競技をしていたが、この 10 年という年月をスッと捨ててしまうという生徒は少なくとも何人かいる。

【学校】 委員のご経験に基づく意見をいただいたと解釈している。
必要に応じて事実関係も確認したい。

(2) 各学年の状況について

【学校】 一年生については元気で明るい学年。少しずつ高校生になってきている。
夏休み前に、自分の時間を意識して過ごすことを伝えている。

【学校】 二年生は進路希望調査の結果、京都大学への進学希望者が 20 人以上増えた。
この変化をよいものとして捉えたいと思っている。

【学校】 三年生は、進路について意識が変化する生徒も出てきている。学習習慣が変わってきた生徒が増えているということ。教室に残って勉強している生徒も増えている。

【委員】 第一志望を貫く生徒はどれくらいいるのか？

【学校】 直近の学年で言えば、京都大学への進学については貫く生徒が多いが、大阪大

学志望者は出願先を大阪公立大学に変更することが多かった。

【委員】 勉強以外のこと、例えば、進路意識も醸成しようとしているのか？

【学校】 三年間で進路意識を向上させるために様々な取り組みを行っている。
進路意識という面では、探究活動もその一つ。単に〇〇大学に行きたいというのではなく、そこで何を学び、将来にどう繋げていくのかを考える契機になる。

(3) SSH 今年度の取組みについて

【学校】 資料 10 にあるとおり、SSH は、理系生徒や理系科目に関わる教員だけでなく学校全体として取り組みを行っている。

【委員】 この活動をするにはかなりのスキルがいると思うが一人でできているのか？

【学校】 私自身は理科教員であるが、学校が培ってきた繋がりなどを活かして取り組みを進めている。

(4) SGH 今年度の取組みについて

【学校】 資料 11 をご覧いただきたい。1 年生からメンバーを募集し、2 年生では探究活動を本格的に行っていく。今年度はフィリピンに研修に行く予定となっている。アメリカへの研修は円安などの影響で中止とした。

【委員】 同窓会も支援させてもらっているがどのような使い道か。

【学校】 教員の付き添い旅費として使わせてもらっている。

【委員】 広報についてはどのようなことが行われているのか？

【学校】 学校説明会などで紹介している。

【委員】 アメリカの研修はなくなったが、オンラインではやらないのか。

【学校】 オンラインの研修は時差があり、生徒が疲弊したこともあり、断念した。

【委員】 オンラインは同時期でなくても可能なので検討してみてはどうか。

(5) 令和5年度進路結果について

【学校】 進路結果については資料12のとおり。現役志向が強まっている。

(6) 令和7年度使用教科書選定について

【学校】 資料13にそって教科書の選定を行っている。教科書が決まったら連絡する。

(7) その他 特になし。

次回日程

10月22日(火) 15時～16時30分

1月24日(金) 15時頃開催(南極授業のため)

※ 一人の委員が以下の趣旨の発言をしています。これについて、毎年実施している部活動に関する調査結果で検証したところ、事実とは異なることが判明していますので、その旨ご報告します。

「ある中学校から入学した10人が全員部活動を辞めた」